

発熱量をセルフコントロール

●Fヒータは重なっても大丈夫。しかも耐久性抜群の省エネタイプ。

自己温度制御作用

Fヒータの発熱体は、放射線架橋ポリオレフィンに導電性カーボンと混和した抵抗体を使用しています。発熱体の温度変化によってポリオレフィンが熱膨張収縮し分散しているカーボン粒子間の距離が変わるため温度変化に応じて発熱量が増減します。Fヒータは、自己温度制御機能をもっているためオーバーヒートも燃えることもなく安全に使用できます。

●特長

| | |
|--------------------------|---|
| 自己温度制御だから安全。しかも省エネタイプです。 | 周囲の温度環境に応じてFヒータの発熱量が自動的に増減する自己温度制御機構つきですから省エネタイプ、オーバーヒートの心配は全くありません。 |
| ヒータどうしが重なりあっても安全です。 | Fヒータ同士が重なる部分は、それぞれの自己温度制御機能によって発熱量を軽減します。したがって従来の電熱ヒータではできなかったヒータどうしの重なりがあっても問題ありません。 |
| 自由な長さで使えます。 | 発熱体を連続的な並列回路で形成しているため排水路、笠木の状況にあわせて任意の長さに切って使えます。 |
| 施工が簡単です。 | 笠木や排水路に通すだけで簡単に施工できます。 |
| 耐久性に優れています。 | Fヒータは2本の平行な導線間に並列に抵抗体が配置してありますから、断線事故は起りません。ニクロム線を使ったヒータに比べ耐久性に優れています。 |

●タイプ

笠木用ヒータ(Sタイプ)

難燃性プラスチックにスズメッキ銅線を編組し、機械的強度とアースを考慮したタイプです。

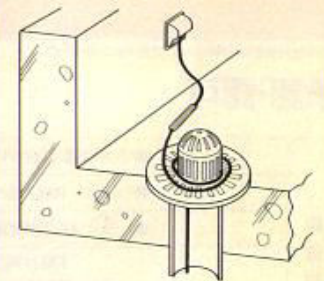
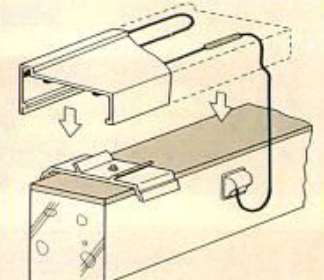


排水路用ヒータ(SJタイプ)

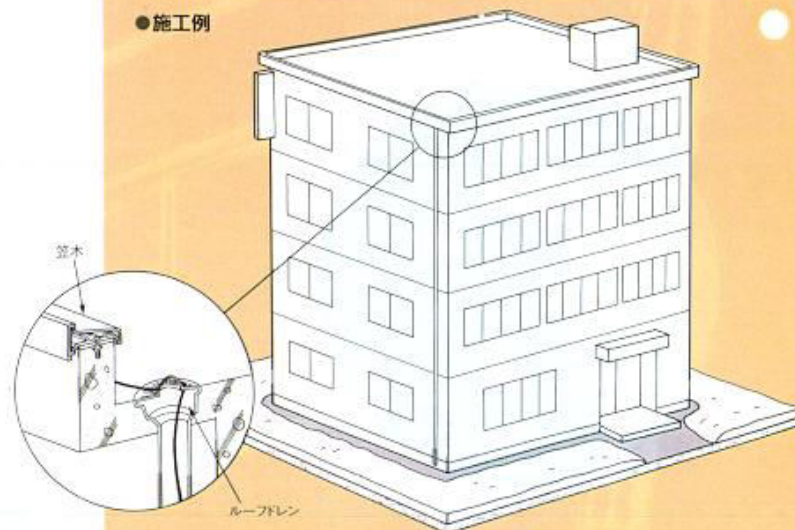
Sタイプの編組線上にさらに難燃性の外層プラスチックジャケットを被覆し耐水、耐薬品、機械的強度を考慮したタイプです。



●施工例

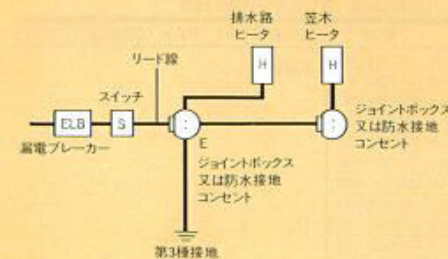


●施工例



●配線工事

- ①図に示すように、各ジョイントボックス間の配線および漏電ブレーカーの配線をおこないます。
- ②取り付け後は必ずヒータの導通をチェックして異常のないことを確認してください。
- ③メガテスター(500V)でヒータ芯線と笠木間の絶縁の異常のない事を確認してください。又排水路ヒータの場合は芯線とアース間で行ってください。



3拍子そろったフジクラのヒーティング・システムは、効率のよい総合的な融雪対策をお約束します。

